

農業技術センターニュース

目 次			
パーシャル大袋包装の花きへの応用	… 1	トルコギキョウ立枯病に対する 土壌還元消毒の効果と品種の感受性	… 4
多収性水稻品種 ‘とよめき’、‘たちはるか’ の 多収・高品質栽培法	… 2	促成ナスの光合成・LAI の「見える化」	… 5
ニラのネギアザミウマに対する殺虫剤の効果	… 3	一番茶のみを摘採する場合に適した せん枝時期の検討	… 6

パーシャル大袋包装の花きへの応用

切り口部の拡大

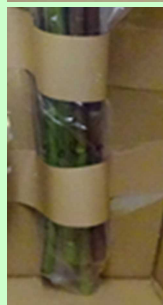


写真1 ダリア荷造りの比較
上：パーシャル大袋包装
下：一般的な荷姿
(湿式輸送)

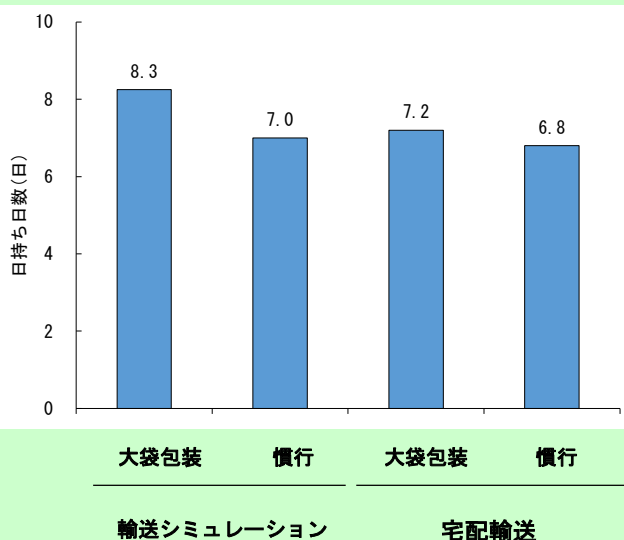


図1 大袋包装がダリア‘かまくら’の品質保持に及ぼす影響(2020年)

注) 東京到着(想定)日を0日とし、花卉が萎れるまでの平均日数を示した。

高知県内では様々な花きが栽培されており、県内外の市場へ輸送されています。ダリアやトルコギキョウなどでは、市場へ輸送する際に糖分等を補給するため、茎の切り口に給液資材を装着し、段ボールに梱包する湿式輸送が一般的です(写真1)。しかし、湿式輸送では、給液資材の費用や梱包時の手間、液漏れなど多くの問題があります。

これらの問題を解決するため、ニラなどの野菜の鮮度保持技術として当センターで開発したパーシャル大袋包装技術を応用できないか、今回ダリアで検討しました。

一般的な湿式輸送(以下、慣行)と給液資

材を用いずに花束全体を大袋に包装した処理(以下、大袋包装)を行い、東京市場へのトラック輸送を想定した変温管理によるシミュレーション試験と、実際に東京市場へ宅配で送る輸送試験とを実施しました。その後の品質を調査した結果、両試験とも、大袋包装と慣行とは同程度以上の日持ち日数となり、大袋包装の品質保持効果を確認できました(図1)。

今後は、大袋包装時における花卉の損傷軽減対策などについても検討し、パーシャル大袋包装の花きへの応用に向けて取り組んでいきます。

(品質管理担当 福井博一 088-863-4916)